

渋川地区医師会との連携で 看護学校への運営費補助・奨学金を充実させます

地方の医師不足が深刻化してから数年が経ちました。地方では医療の担い手である看護師不足も進み、地方都市の地域医療は崩壊しかけていていると言われていています。渋川市には地区医師会立の看護師養成所3年課程がH24年度から開校します。

渋川総合病院でも看護師不足対策は緊急の課題であり、市内の病院・介護施設でも毎週のように求人が出ています。その状況を打開するためにも、渋川市も積極的に動くべきと考え、昨年9月定例議会において看護学校への運営費助成や学生への奨学金制度を創設することを提言しました。県からの運営費補助や奨学金制度充実に向けても取り組んでいきます。



渋川准看護学校の卒業式・閉校式
私も出席させていただきました

これからも、地域医療の充実のために全力で頑張っていきます。

湘南新宿ラインの渋川駅乗り入れを実現させ 伊香保温泉や観光農業を活かします



関屋橋から見た延伸された石段

伊香保温泉再生事業は配湯施設や道路整備、石段延長やそのための観山荘買収や解体費用等で、第1期・2期で総事業費34億円が投資されます。H22年度から第2期計画が始まっています。

伊香保を中心とした「湯の街しぶかわ」を活かすためにも、湘南新宿ラインの渋川駅乗り入れは実現しなければなりません。JRは渋川駅のホームの長さが足りないことや、乗降客数が問題と言っていますが、全車両でなくとも良いわけです。現実には、上越線と吾妻線の特急は渋川駅をそれぞれ通過した後、新前橋駅で連結して上野駅に向かうものもあるわけです。実現に向けて全力で取り組みます。

渋川市の重点課題への取り組み 【その1】

西群馬病院が渋川市街地に近い平坦部に
移転先を検討しています。

今、渋川総合病院の経営が重大な危機に面し、その存続さえ危ぶまれている時に、西群馬病院、渋川総合病院という2つの公的病院が競合するのではなく、協力し合っこそ市民のいのちを守ることができます。

この協力体制ができない限り、西群馬病院に渋川市が大規模な財政支出をすることは、市全体にとってプラスになりません。



移転となるのか
独立行政法人 西群馬病院

北毛地区・渋川市の医療圏に求められる体制づくりに全力で取り組みます。

西群馬病院の移転と渋川総合病院の 経営改善は切り離せない重要課題 協力し合っ市民のいのちを守る

渋川市の高齢化率も25%を超え、65歳以上人口は2万2000人となりました。その内、介護を必要と認定された人は16%、3,500人となり、介護保険サービス等を利用しています。

施設入所の希望者は年々増え、特別養護老人ホームの入所待機者は400人以上にもなります。市の介護保険財政の適正な運営を考えながら、入所施設整備を進めていく必要があります。ケアマネージャーとしての専門性と高齢者福祉の現場での経験を活かし、安心して暮らせる老後のために全力で取り組んでいきます。



介護現場の経験を活かし
パネリストとして講演会に参加

ケアマネージャーとして 経験と専門性を活かし、高齢者介護の サービスを充実させます

2021年度までに、公立高校を最大10校削減させる県教育委員会の「高校教育改革推進計画案」が昨年12月にまとまりました。渋川・吾妻地域は8校を7~6校にするというものです。

地元の反対で暗礁に乗り上げている沼高と沼女の統合案を考えても、普通科の渋高、渋女、青翠高校が今後このままでいく保証はありません。

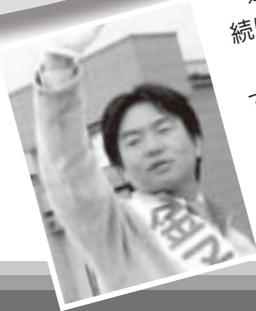
現在の渋川市と周辺の人口を見ても、渋川市内に4校は必要です。渋川市内4校の存続のために全力を尽くします。



渋川市内の4校を守る! 高等学校再編成は 地元との合意を最優先に

その1

初心を忘れない努力を続けてきた根気
「パフォーマンス」との悪口も
⇒今ではおどろきになりました



選挙前だけでなく、初当選の次の日からもずっと
続けてきた朝のあいさつ。もう12年間になりました。
最初は「パフォーマンス」と言う人も。しかし今
では余程の悪意がある人でない限り、そんなことは
言いません。
まさに継続は力なり。「初心を忘れず」おごり・
高ぶることなく地道な活動のできるわたるに次をま
かせてみませんか。

その2

市民の声なき声を市長・議会に届け続
けてきた実行力。一回も、休まず続けた
一般質問は12年間で47回に



定例市議会ごとに、市議会議員が市民のさまざまな要望を
市長に質問できるのが一般質問と言われるものです。
わたる議員は、12年間1回も休むことなく「要望実現の
気迫」を込めて訴え続けてきました。通算で47回を数えます。
どのような小さな声でも、市民の声なき声やつぶやきを届
け続けてきたわたるに次をまかせてみませんか。

わたるにまかせてみたい理由あれこれ

その3

市政の出来事をきちんと市民に届け報告
「わ・わ・わ通信」は特集・号外を含めて103号に



市政・市議会を身近にするために発行し続けてきた、わたる
の市政・議会報告「わ・わ・わ通信」がついに103号を突破。
この間、さとり跡地の問題、給食方式に関する特集や火災発
生地区の防火水槽・消火栓図なども発行し、多くの市民に認め
られてきました。中でも、特集のひとつ「市政いろいろ早わかり」
では、市政がより身近になったとの声が多数寄せられています。
その県政版の「県政いろいろ早わかり」で、県政・県議会を
身近に伝えることのできるわたるに次をまかせてみませんか。

その5

住民本位の政策を提言してきた発想と政策力
常に市民の目線で作り続けた
具体的な解決策の数々

政策にはわずかの金額で実現できるものも
あれば、実現に数十億の予算が必要なものも
さまざまあります。
わたる議員は、政策にかかる費用を見極め、
市民の生活重視で、教育・福祉・医療、活力
あるまちづくりのための政策を提言し実現し
てきました。
私たちの子どもや孫の世代のために！未来
を見すえ、財源とのバランスのとれた政策提
言のできるわたるに次をまかせてみませんか。



その4

現場主義で市民の期待に応えてきた実現力
連絡があればすぐに現場に飛び、
直接話を聞くことを優先



現場主義という言葉のとおり、
市民からの相談・連絡があれば、
すぐに現場に飛んで行き、現状を
確認。その場で直に話をすること
で早期の解決を実現してきました。
夏の暑い時期でも真冬の寒さの
中でも、住民の声に応えて現場主
義、ドブ板主義を貫くわたるに次
をまかせてみませんか。